

ニセコ町の自治創生の取組状況（報告）

1. 「ニセコ町自治創生総合戦略」の推進

平成28年3月に策定した「ニセコ町自治創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）について、まちづくり町民講座を通して町民への自治創生の浸透を図り、地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金等を活用し、総合戦略のKPI達成に向け事業を推進している。

2. 金井参事（シティマネージャー）の帰任

総合戦略の策定及び推進に尽力いただいた、金井参事（シティマネージャー）が平成29年3月31日をもって任期を終え、環境省へ帰任した。

帰任後においても、ニセコ町を担当地域とした「地方創生コンシェルジュ」に就任いただき、首都圏からニセコ町の応援団として、ニセコ町のまちづくりに協力いただいている。

3. 地方創生加速化交付金

地域のしごと創生に重点を置きつつ、一億総活躍社会実現に向けた緊急対策にも資する、効果の発現が高い事業を交付対象として、官民協働、政策間連携、地域間連携等の先駆性を高め、地方創生のレベルアップの加速化を図るための予算措置。

ニセコ町は、5事業（単独2事業、連携3事業）が採択され、事業を実施した。（詳細は、議事（2）において説明）

4. 地方創生推進交付金

地方版総合戦略に基づいて、地方公共団体が自主的・主体的に行う先導的な取組に対し、地方創生推進交付金により支援することにより、地方創生の更なる深化の推進を図るための予算措置。

ニセコ町は、平成28～30年度の3ヵ年事業として1事業が採択され、現在、事業実施中。（詳細は、議事（4）において説明）

5. ニセコ町自治創生推進本部会議

自治創生に関する施策を全庁的に推進するため、町長（本部長）、副町長（副本部長）、教育長、課長ほかで構成。

期 日： 平成29年2月21日（火）（第11回）

内 容： 今後の自治創生の進め方ほか

6. まちづくり町民講座の開催

(1) 「地域おこし協力隊のギモン」

地域おこし協力隊の活動に対する課題、疑問、採用前後のギャップ等に関する意見交換を通して、制度導入目的の理解の深化を図るとともに、得られた意見を制度運用や来年度以降の募集内容等に反映することを目的に開催。

期 日： 平成 28 年 10 月 13 日（木） 18:30～20:45

場 所： ニセコ中央倉庫群 旧でんぶん工場

発表者： 地域おこし協力隊員、地域おこし協力隊配属先、役場職員による
パネルディスカッション

出席者： 43 名

<特徴的な意見（抜粋）>

- 協力隊のやりたい活動と配属先のマッチングは難しいと思う。
- 配属先がどのような人材を求めているのかを明確にして協力隊を募集すべき。
- 何のために協力隊を募集するのか、地域、配属先、役場の共通認識が必要。

(2) 「地方創生の正体」

地方創生の意義等について（国の表現に頼らずに）町民目線で分かりやすく解説できる有識者を招き、地方版総合戦略策定後に特に必要となる、町民の自治創生の推進主体としての意識を高めることを目的に開催。

期 日： 平成 28 年 10 月 26 日（水） 18:30～21:00

場 所： ニセコ中央倉庫群 旧でんぶん工場

講 師： 首都大学東京 都市教養学部 准教授 山下 祐介 氏

出席者： 20 名

<特徴的な意見（抜粋）>

- 人口減少は悪いことなのか。社会のニーズがそのようになっているのではないか。
- 国と地方の序列は、地方創生の交付金に関して特に強くなる。地方創生は町をどうするかという話ではなく、いかに交付金を取るかの議論になっていた。
- 住民が感じている課題を解決することが地方創生ではないか。

(3) 「男女がともに歩む地域づくり」

男女共同参画や地方創生の知見を持って地域づくりに携わっている女性講師を招き、女性町民によるまちづくりのコミュニティを醸成することで、男女共同参画の推進と女性町民の地域づくりへの参画を促すことを目的に開催。

期 日： 平成 28 年 11 月 22 日（火） 18:30～20:45

場 所： ニセコ町民センター 小ホール

講 師： 博報堂ブランドデザイン コンサルタント 木下 富美子 氏
（地方創生人材支援制度による江差町シティマネージャー）

出席者： 20 名

<特徴的な意見（抜粋）>

- 多様性が尊重されるコミュニティができればいい。
- 女性目線の職場改善をやってみる。
- 何か始めるには、まず3～5人の核になる人が必要。次に、ニセコ町には多様な人がいるので、潜在的な人材を発掘する。
- 仕事（就職）をしている女性は発言しやすい。（専業主婦は発言できない）

(4) 「ニセコは観光で稼げているのか」

産業・観光・人口等の分野の有識者の派遣を受け、RESASを活用した政策立案等に関して自治体職員と議論を行うとともに、RESASを用いた分析へのアドバイスを受けることを目的に開催。

期 日： 平成28年12月20日（火）18:00～20:00

場 所： ニセコ中央倉庫群 旧でんぷん工場

有識者： 首都大学東京 都市環境学部 教授 清水 哲夫 氏
(経済産業省のRESASワークショップとして開催)

出席者： 27名

<特徴的な意見（抜粋）>

- RESASは、あくまでツール。RESASだけで解決策を見出すというよりも、RESASなどの分析結果を材料に、町民との対話を進めたり、アイデアの出し合いのきっかけにしたりすることが重要。
- 観光客のうち宿泊客の比率が高いのがニセコエリアの特徴。宿泊客がどこでどのようにお金を使っているのかがまだ見えてこない。観光客の消費動向に対応して「食」を生かすよう考えるべき。
- 一人ひとりが仕事を多角化できるかを考えるべき。今いる町民の働き方の効率化も考えるべき。

(5) 「ニセコは投資で稼げているのか」

「環境創造都市ニセコ」が、豊かな自然環境をはじめとした地域資源を守るとともに最大限に生かしながら地域経済を豊かにし、資金や人材を呼び込むことを目指している旨を改めて強調し、「町民主体のまちづくり」と両立した進め方について議論することを目的に開催。

期 日： 平成29年3月21日（火）18:30～20:30

場 所： ニセコ町民センター 研修室1

発表者： 役場職員による政策提言発表

出席者： 39名

<特徴的な意見（抜粋）>

- ニセコ町が観光で稼げていないのは嘘だと思った。しかし、調べていくうちに、域外に資金が流出していることが明らかになった。また、域内に留まっている資金も産業間であまり循環していないことも明らかになった。

- 観光にもデータは必要だと感じているが、データだけでなく「ひらめき」が必要。データを基にする考え方だけでは、どこでも一緒の内容になってしまう。
- 住民が自分の力を発揮できるのが地方創生と思う。大量生産を前提としたシステムだけではうまくいかないと感じている。地方ならではの小規模だからこそ輝けるものがある。
- 現状を正しく認識するためにデータを積み上げることは重要だが、データはあくまでも道具に過ぎない。積み上げたデータを使いこなす（生かす）のは、町民や役場である。

(6) 「地域おこし協力隊導入・運営セミナー」

地域おこし協力隊等の外部人材の主体性を生かし、地域づくりの実践を進めている有識者から、外部人材の活用アドバイスをいただき、ニセコ町の自治創生をレベルアップする方法を見出すことを目的に開催。

期 日： 平成 29 年 8 月 31 日（木）18:30～20:30

場 所： ニセコ町民センター 研修室 1

講 師： 一般社団法人 村楽 理事 東 大史 氏

出席者： 21 名

<特徴的な意見（抜粋）>

- 与えられたミッションを行うだけではなく、地元とつながり、地元に必要なものを探ることが必要。
- 行政からの依頼ではなく、自分で企画・実践をした。地元と繋がるためには先に行動すること。アイデアを示すだけではうまくいかないの、実行に移して行動を見せることが必要。
- ニセコ町における地域おこし協力隊の運用として、やはり人手不足のため各種イベント等においては「人手」として活動していただいている。しかし、単なる人手ではなく運営する側として意識して、意見を出し合えることで成果はあると思う。

7. ニセコ町議会との意見交換

町民から選ばれた公職者であるニセコ町議会議員との意見交換の機会を積極的に設けている。

期 日： 平成 28 年 9 月 12 日（月）（政策案件等説明会）

内 容： 自治創生の取組についてほか

期 日： 平成 28 年 12 月 15 日（木）（政策案件等説明会）

内 容： 自治創生の取組についてほか

期 日： 平成 29 年 3 月 9 日（木）（政策案件等説明会）

内 容： 自治創生の取組についてほか

期 日： 平成 29 年 6 月 16 日（金）（政策案件等説明会）

内 容： ローカルスマート交通の取り組みについて

期 日： 平成 29 年 7 月 19 日（水）（総務常任委員会 所管事務調査）

内 容： 自治創生の取組についてほか

8. 地域経済循環強化戦略について

【目的】

ニセコ観光圏の地域経済循環を客観的かつ定量的に分析することにより、本町にとって優良な投資を戦略的に生かしながら、地域経済循環を強化するための戦略を見出す。

<ニセコ町地域経済循環強化戦略策定支援委託業務>

（受託者：有限責任監査法人トーマツ札幌事務所）

- 1) ニセコ観光圏の地域経済分析
- 2) ニセコ町産農産物の特徴の分析
- 3) 地域経済循環強化戦略の策定
- 4) 町外へ情報発信すべき内容・方法の提案
- 5) 検討用資料の作成
- 6) ニセコ地域経済セミナー（仮称）の開催

<ニセコ町産農産物ブランド化戦略研究>

（受託者：小樽商科大学受託研究）

- 1) 観光業に対するニーズ調査
- 2) 観光客に対するニーズ調査
- 3) 栄養分析・土壌分析
- 4) 農業者との研修会によるニセコ町産農産物ブランド化戦略の検討
- 5) 検討用資料の作成

9. 今後の予定（主なトピックス）

まちづくり町民講座

外部有識者を招聘しての講演及びワークショップを通して、地方創生の最先端やヨソモノ目線を吸収しながら、自治創生の検討内容のさらなるレベルアップを図る。

○持続可能な住民自治活動運営セミナー

持続可能な「住民自治活動と行政の連携」による自治創生を進めるために必要となる、ニセコ町らしい地域運営組織のあり方を見出すため、「地域の課題解決のための地域運営組織に関する有識者会議」座長を招聘し、町民の自治創生の推進主体としての意識を高めることを目的とする。

期 日： 平成 29 年 11 月頃

講 師： 明治大学 農学部教授 小田切 徳美 氏